

マキテック 車いすについて

車いす 基本構造

ハンドル押手(グリップ)

介助用の操作グリップ。立った姿勢で手首の位置くらいが適正な高さになります。

介助用ブレーキ

背折れレバー

サイドガード(スカートガード)

衣類などがタイヤに巻き込まれないようにするものです。

ブレーキ(駐車ブレーキ)

安全のために停止・移乗時に必ず使用します。

ハンドリム

手で握って駆動輪を操る部分。

ティッピングレバー

介助者が走行中の段差などを越える場合に足で踏んでキャスターを上げます。ティッピングバーともいいます。

背シート(バックサポート)

安楽な姿勢のための背もたれで、姿勢保持の役目をします。

アームサポート(肘当て)

安楽な姿勢のための肘乗せで、移乗や立ち上がりのための支えとなります。跳ね上げは移乗が容易になります。

座シート

座位姿勢や立ち上がりの動作に影響します。たわみが少なくしっかりしている物を選びます。

レッグサポート

足が後ろに落ちるのを防ぎます。

フットプレートサポート

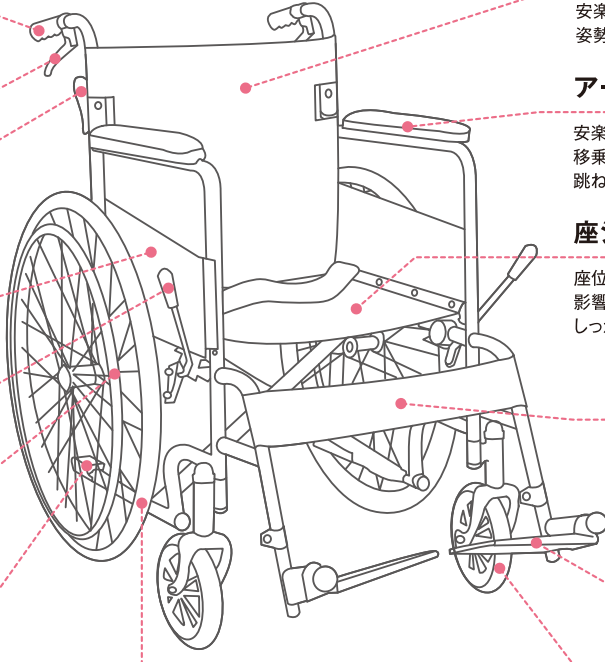
足乗せ台。開閉式、取り外し式は移乗しやすくなります。

駆動輪(後輪・主輪)

自走用は22、24インチが一般的。介助用では小径となります。

キャスター(前輪)

走行の安定性を保ち、方向転換をしやすくします。

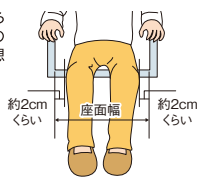


車いすの採寸について

大きすぎても小さすぎても、
乗られる方はつらいもの…。
車いすは乗る方のサイズに
合っていることが一番の条件です。
以下の点に注意して、自分にピッタリの
車いすをセレクトしてください。

① 座面幅(肘掛けパイプ内々寸法)

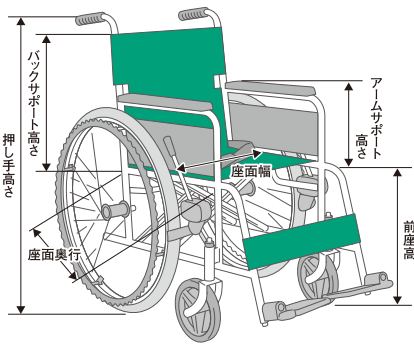
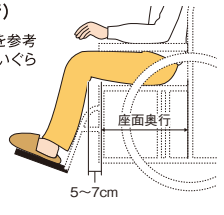
おしりの横で手のひらが入る約2cmくらいのゆとりがあるのが理想的です。



② 座面奥行(シートの奥行)

おしりの後ろから膝の裏までの長さを参考に、その長さより約5~7cm短いのが理想的です。

【座面奥行が長い場合】
ずっこけ座りの原因になってしまいます。
【座面奥行が短い場合】
おしりにかかる圧力が大きくなり、
血行障害や皮膚の損傷のもと
になってしまいます。



③ 前座高

下腿長より5cmほどプラスした高さが立ち上がりやすく、座りやすく理想的です。足こぎをされる方は1~2cmプラスしてください。また、膝関節の可動域に制限のある方は高めめの座面を選ぶのがオススメです。(クッション等を敷く時はその厚みを考慮してください。)



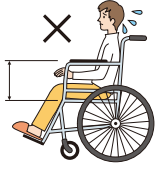
④ フットサポート長

太ももが軽くシートに触れている位置で床から5cm以上が理想的です。シートと太もものすき間は開けすぎず、密着しすぎないように気を付けましょう。



⑤ アームサポートの高さ

座る面から90°に曲げた肘の高さを目安に2~3cm高めが理想的です。上がりすぎず、下がりすぎない高さを選びましょう。(クッション等を敷くときはその厚みを考慮してください。)

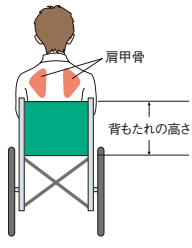


【高すぎる場合】
肩が押し上げられ、アームサポートを使用せず、上股を遊ばせてしまいます。

【低すぎる場合】
肩が下がり、前傾姿勢になってしまい、疲れやすくなります。

⑥ 背もたれ

自走できる方は肩甲骨の下端部に触れるくらいの高さが理想的です。ひとりではわかりにくい場合は、家族などに見てもらいましょう。



⑦ 押し手の高さ

介助者の肘が軽く曲がり、力が入れやすい位置が理想的です。(一般的に介助者のへのの高さが目安です。)

